

第3回受賞 平成25年(2013年)

受賞テーマ

「EML4-ALK肺がん原因遺伝子の発見と臨床応用」

<所属・職位は受賞当時>

- <代表者> 間野 博行 (東京大学大学院医学系研究科 生化学・分子生物学講座 細胞情報学分野 教授)
- 曾田 学 (自治医科大学 ゲノム機能研究部 ポストドクター)
- 崔 永林 (東京大学大学院医学系研究科 ゲノム医学講座 特任教授)
- 竹内 賢吾 (がん研究会がん研究所 分子標的病理プロジェクト プロジェクトリーダー)



第3回受賞テーマ『EML4-ALK肺がん原因遺伝子の発見と臨床応用』に関する研究成果として、ある特定の非小細胞肺癌の患者さんに画期的な効果をもたらす新薬開発の科学的論拠が明確に示されました。2007年の間野先生グループの報告以来、わずか4年で実際に臨床上の恩恵をもたらす新薬が許可され、まさに基礎研究が臨床に実際に役立つことを示したすばらしい研究成果であり、世界的に評価されております。そのきっかけが日本の研究であり、しかもALK肺がんTRチームはまさにトランスレーショナルリサーチを率先して実施し、新薬を世に送り出しました。

現在では、ALK融合蛋白質および特定のALK変異体を標的とするチロシンキナーゼ阻害薬は、クリゾチニブ、アレクチニブ、セリチニブ、ローラチニブに加え、今年ブリグチニブが製造販売承認され、選択肢が充実してきています。